

A表 貸出文庫

利用状況(昭33年12・33年12)

区分 館名	貸付件数	貸付冊数	利用人員	利用延冊数
本館	213件	5,551冊	3,349人	8,742冊
郡山分館	115	2,563	4,591	4,591
会津分館	23	429	377	734
平分館	71	1,597	1,369	3,108
白河分館	58	1,560	1,236	2,919
相馬分館	52	756	640	952
田島分館	31	876	821	876
計	563件	13,332冊	12,383人	21,922冊

B表 貸出先別

館別 貸付先別	本館	郡山分館	会津分館	平分館	白河分館	相馬分館	田島分館	計	比率
読書会	107	35	5	16	40	49	9	261	46
青年会	66	4	4	12	2	1	19	108	19
婦人会	0	25	2	15	3	0	0	45	8
公民館	11	4	6	3	2	0	3	29	5
学校	0	0	1	1	0	0	0	2	0.8
官庁会社	23	39	3	17	0	0	0	82	15
その他	6	8	2	7	11	2	0	36	6.7
計	213	115	23	71	58	52	31	563	100

C表 性別

	本館	郡山分館	会津分館	平分館	白河分館	相馬分館	田島分館	計	比率
男	1,620	2,549	197	905	674	373	346	6,664	54
女	1,729	2,042	180	464	562	267	475	5,719	46
計	3,349	4,591	377	1,363	1,236	640	821	12,383	100

D表 読書傾向

分類別	館別	本館	郡山分館	会津分館	平分館	白河分館	相馬分館	田島分館	計	比率
総記		25	77	5	7	47	1	73	235	1.1
哲学		216	78	15	87	87	20	55	558	2.5
歴史		171	218	29	109	108	25	59	719	3.3
社会科学		440	289	53	185	104	52	54	1,177	5.3
自然科学		82	76	26	33	38	6	61	322	1.5
工学		122	69	14	43	39	61	59	407	2.0
産業		211	22	6	57	41	57	68	462	2.7
芸術		183	539	23	111	91	22	56	1,025	5.0
語学		38	13	2	5	17	9	66	150	0.6
文学		7,254	3,210	561	2,471	2,347	699	325	16,867	76.0
計		8,742	4,591	734	3,108	2,919	952	876	21,922	100.0

B 青少年巡回文庫

青少年の健全な発達をはかるため、主として読書にめぐまれない地域を対象として、青少年巡回文庫を開設し、青少年の読書欲を高めるとともに、青少年の読書グループを育成し、ひいてはその地域社会

A表についてみると、昭和33年1月から12月までの1カ年の利用状況は貸付件数563件利用人員12,383人、利用冊数21,922冊で1人平均1.8冊の図書を利用している。前年に比較して若干減少しているが、これは昭和33年度は青少年巡回文庫に力をいれたため、各分館に新刊図書の配置がなされなかったためと思われる。

この貸出文庫は、団体および機関を対象として貸付けるもので、県内の読書会・青年会・婦人会・公民館等からの申請によって、1回30冊程度1カ月から2カ月の期間貸出すものである。

館内利用の場合は大半が学生・生徒であるが、この貸出文庫はB表のとおり、学校の利用がほとんどなく、また公民館の利用度も極めて少い。このことは学校図書館や公民館図書部が充実したためであるか、それとも利用にたえない貧弱な巡回文庫であるためか、とにかく、公民館との連携は今後特に密にしていきたい。それから郡山市は工業地帯のためか官庁・会社の利用が多いことなどが注目される。

C表の男女別の利用状況についてみると、大体同率に利用しているが、これは婦人層の読書にたいする関心が高まったためと思われる。

D表の読書傾向としては、貸出文庫が固定編成と自由編成の2種あるにもかかわらず利用者の大部分が自由選択の方法によることから、文学関係が最も多く読まれており、つぎが社会科学関係、芸術、歴史、産業、その他の順となっている。

の産業ならびに文化の向上をはかろうとするものである。

予算についてはご覧のように、国庫補助が年々減少しているのは、いかなる理由によるものか、はなはだ理解に苦しむ。